

- 1 日時 令和2年6月〇日（〇）
- 2 場所 難聴特別支援学級（きこえの教室）
- 3 児童 第〇学年 男児
- 4 指導方針

本学級での指導のねらいは、「きこえ」や「ことば」に課題のある児童を正しく理解することを基盤として、的確な実態把握のもと、児童の課題に応じた指導・支援を行い、全体的に調和のとれた発達を促し、学校生活や社会生活への適応を図ることである。

そこで、指導にあたっては、本児を取り巻く「きこえ」や「ことば」等の環境を整えながら、聞くことや話すこと、読むことや書くことへの自信を育てていきたい。さらに、自己の障害について正しく理解したり、同障の仲間と関わったりする時間を通して、自分がすべきこと・他者に依頼すべき支援を考え、それらを実践できる力を育てていきたい。

そのために、本児の実態をふまえ、以下のような**指導方針（1）～（6）**を立てた。

きこえについて	聴覚管理 聴覚活用	<p>(1) 聴覚管理を行い、聴覚活用を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的及び、体調を崩した際や音に対する反応が悪い際には、適宜聴力検査を行い、聴覚管理を行う。 ・人工内耳・補聴器・ミニマイクの自己管理能力の向上を図る。 ・傾聴態度について、最後まで集中して話を聞くことができるようにする。 ・相手の話の内容が分からない際には、自分から確認することができるようにする。 ・自分の聴覚障害について正しく理解し、学習や生活をしやすくするために、自ら工夫したり、他者に依頼したりできるようにする。
ことばについて	発音 言語理解 言語表現	<p>(2) 伝わりやすい話し方（発音、言葉のまとまり、イントネーション）を意識して話すことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の配列によって発音を誤ったり、入れ替わったりする言葉を把握し、取り出して正しく発音できるようにする。 ・言葉のまとまりを捉えにくい際には、自分で意識して、言葉のまとまりを捉えられる工夫ができるようにする。 ・自他のイントネーションの違いに気付き、より自然なイントネーションを模倣できるようにする。 <p>(3) 生活や学習に必要な言語力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からない言葉について、タブレットPCの辞書アプリを活用して調べ、易しい意味説明と画像とで理解を促し、語彙の拡充を図る。その他、本児が分からない言葉について、イメージしやすいよう、適宜、視覚化（イラスト）や動作化などを行い、理解につなげる。 ・学習した言葉について、家庭学習で例文を作り、意図的に表現する機会を増やし、定着を図る。 ・助詞の省略や誤りについて、正しい表現を確認し、「おしゃべりヒントコーナー」に掲示したり、「大事メモ」を活用したりして定着を図る。 ・日常会話や日記指導を通して、出来事の様子だけでなく、その時の気持ちやその理由についても詳しく表現することができるようにする。（気持ちの表情シンボルと気持ちを表す言葉集を手掛かりとする。） ・国語科の学習では、教科書のコピーをノートに貼り、言葉の意味や状況や心情理解につながることを自分で書き込みながら、学習を進める。 ・ことわざ・四字熟語等について、お楽しみ会の題材やグループ学習・家族での話題に意図的に設定する。 ・テストにおける質問の仕方（選択肢、記号、理由）に応じた答え方をパターン化して示し、安心してテストに臨めるようにする。
対人・社会・行動面		<p>(4) 気持ちの良い関わり方について考え、望ましい言動へとつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とトラブルになった際には、時系列で出来事や発言を整理し、相手の気持ち・自分の気持ちについて確認し、望ましい言動へつなげる。 ※イラストやフローチャート等を用いて視覚的に示しながら話し合う。
交流学級での様子		<p>(5) 交流学級の担任と連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別・集団のそれぞれの場面で見せる本児の姿を伝え合い、細かく実態把握を行う。また、交流学級での友達関係や係活動等についても知り、共通認識をもって本児と関わることができるようにする。 ・交流学級の授業を参観したり支援に入ったりし、課題把握に努める。 ・難聴学級の授業を公開したり、担任者会を開催したりし、難聴に関する知識や人工内耳・補聴器を通した聞こえ方、ミニマイクの正しい使い方等について情報提供を行うとともに、他の難聴児の交流学級担任との情報交換を行う。
保護者・家庭		<p>(6) 保護者との連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学習内容や生活の様子等については、毎日の連絡ノートや電話にて情報交換を行う。 ・難聴学級の親子遠足や親子キャンプ等の行事を通して、保護者との信頼関係を深め、本児に対する願いを把握したり、望ましい関わりについて共通理解を図ったりする。 ・難聴学級の授業参観をすすめ、参観後の懇談において指導・支援の共通理解を図る。 ・難聴学級保護者会活動を援助し、保護者間の連帯意識の向上に努める。

5 本時の学習指導案

(1) 題材について

○児童観

本児は、素直な性格で、日常会話や礼儀正しいあいさつ等、自信をもってすることができる(特に大人に対して)。しかし、重度の聴覚障害と自閉症の診断を受けている本児は、ことばの力やコミュニケーション能力の未熟さから、高学年になるにつれ、学習・生活の中で「分からない。困った。」と感じる場面が増えてきている。

学習については、クラスの友達と比べて、難聴による語彙力や理解力・表現力の乏しさを自覚しており、「自分の努力不足だ」と悩む様子が見られる。また、生活面においては、友達とのやりとりの中で、自分の思いや予定と異なる状況になると、イライラしてしまうことを自覚しており、「自分の我慢が足りないから、心が落ち着かない」と悩み、一人で気持ちの整理をしようとする様子も見られる。

いずれの場合も、「難しい勉強を分かるようになりたい」「思ったことを表現できるようになりたい」「イライラしないで友達と楽しく過ごしたい」という前向きで素直な性格によるところと感じている。しかし、同級生の中では、勉強が分からないことを知られたくなかったり、気持ちが高揚して調子に乗りすぎてトラブルになったりすることが多く、「交流学級ではなんとなくうまくいかない。」と感じているように見える。これまで、様々な気持ちを語ってきた指導者に対しても、今の気持ちを素直に語ることへの抵抗を感じていると捉えられる場面も出てきた。本児の年齢相応の成長を見守りながら、学習・生活の中での自信へとつながるように指導を継続したい。

○教材観

自分の聴力や人工内耳・補聴器について正しく理解し、同障の後輩に伝えるという学習は、自分について知り、考えるきっかけになると考える。さらに、下学年の相手を意識して、表現したり伝えたりする必要性を大切にしたい。

教科書教材「帰り道」は、同じ出来事について、「律」と「周也」という2人の登場人物の別々の視点で語られていく物語文である。一人称視点で語られる本教材では、登場人物の心情や相互の関係が、会話文や心内語、情景描写や見たものの表し方等、様々な叙述から読み取れる。場面ごとに、2人の視点からの表現をパターン化して整理することで、2人の人物像を捉えることができると考えている。同年代の2人の下校時の出来事や、身近な「けんか」という話題に、自分を投影しながら読み進めていきやすい教材であると考えている。

○指導観

「きこえ」についての学習では、重度の聴覚障害という事実を受け止めると同時に、これまでの自分や家族との経験や努力によって、現在の「ことば(語彙や理解力・表現力)」の力が身に付いていることにも気付かせ、自信へとつなげたい。また、下学年の仲間や、先輩たちの「きこえ」についての捉え方を知るきっかけにもしたい。同障の後輩との時間を有意義に過ごすことができるよう心掛けて取り組んでいきたい。

国語科の学習では、昨年度の物語文「大造じいさんとガン」で、指導者と一緒に読み進めていくことで、「そういうことだったのか」「分かったらめっちゃ感動してきた」という言葉が聞かれ、大変興奮して、分かる喜びを感じている様子を見せた。本時も苦手な物語文なので、特に文章中に出てくる言葉について、意味や使い方を丁寧に確認していきたい。身近な言葉についても、本児がどう理解しているかを“念のため”確認することを心掛けたい。「分からない」言葉については、タブレットPCの辞書アプリに画像を登録しながら確認する。言葉の意味を確認した上で、別々の視点から語られる人物の心情や関係、人物像等について、指導者が確認しながら読み進める。挿絵からの情報が大変有効な本児に合わせて、文字や絵をかき込みながら、状況や心情を具体的に掴むことができるよう支援したい。また、因果関係を捉える際には、「どうして～と思ったの。」等と質問し、回答が難しい様子が見られた場合には、答えとなる叙述を選択肢で示したり、範囲を示したりして呈示するとともに、因果関係が見て分かるように、矢印等を書き込みながら読み進めたい。さらに、物語文「帰り道」の内容から、同じ出来事でも、人によって、感じ方や捉え方の違いがあることを前向きに捉えられるように支援したい。自分自身の捉え方と似ている点や異なる点について考えることで、実生活の中でも、同級生の友達やきこえの仲間と関わる際に、お互いに気持ちの良い関わり方(言動)につながっていくことを期待している。

(2) 本時の目標

- ① オージオグラムの見方や自分の聴力について、理解することができる。(自立活動1-**3・4**)
- ② 同障の下学年児童に対して、自分の聴力や人工内耳や補聴器の役割について説明しようすることができる。(自立活動1-**4**) (自立活動2-**3**) (自立活動6-**2・5**)
- ③ 学習した言葉(「」「」)を用いた例文を作ることができる。(自立活動6-**3**)
- ④ 「帰り道」の登場人物の人物像について、心情等の描写をもとに捉えることができる。(国語科) (自立活動3-**2**) (自立活動6-**2・3**)
- ⑤ 「帰り道」の登場人物の心情の変化を具体的に想像し、2人の心の距離を表すことができる。(国語科) (自立活動3-**2**) (自立活動6-**2・3**)

【本児に主に重点をおいている自立活動の指導内容】

- | | | |
|--------------|-------------------------------------|--|
| 1. 健康の保持 | 3 身体各部の状態の理解と養護 | 4 障害の特性の理解と生活環境の調整 |
| 2. 心理的な安定 | 3 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | |
| 3. 人間関係の形成 | 2 他者の意図や感情の理解 | 3 自己の理解と行動の調整 |
| 6. コミュニケーション | 2 言語の受容と表出 | 3 言語の形成と活用 5 状況に応じたコミュニケーション |

(3) 学習活動の流れ

学 習 活 動	目 標	○支 援 ☆評 価	準 備 物
<p>1. はじめのあいさつをする。 本時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「きこえ」について確認しよう ・きこえの仲間に伝えよう ・「帰り道」→例文作り →2人の性格は？ →2人の心の距離 </div>		<p>○適当な声の大きさや自然なイントネーションに意識を向ける。</p>	
<p>2.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「きこえ」について確認しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーディオグラムの見方や意味について思い出す。 ・自分の聴力について知る。 </div>	①	<p>○オーディオグラムの見方（横軸が音の高さ・縦軸が音の大きさ）や、右耳と左耳の聴力の違い等について、改めて確認する。</p> <p>○指導者を含めた健聴者の一般的な「ことば」の獲得の仕方と、難聴者の獲得の仕方について伝える。現在の本児の「ことば」の力は、これまでの自分や家族が重ねてきた経験や努力による成果だと感じられるような言葉掛けをする。</p> <p>☆オーディオグラムの見方や自分の聴力について理解することができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本児のオーディオグラム ・指導者のオーディオグラム ・タブレット
<p>3.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>きこえの仲間に伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工内耳・補聴器の仕組みや役割について復習する。 ・ミニマイクの仕組みや、必要な場面について考える。 ・下学年の仲間に向けて、自分の聴力や関連機器について伝えるポスターを作る。 </div>	②	<p>○人工内耳や補聴器について、以前ペア学習したものを示し、それぞれの仕組みについて確認する。必要に応じて、タブレットPCや説明書を活用して調べられるようにしておく。</p> <p>○普段使っているミニマイクについても、その仕組みや役割について確認する。自分にとって必要な場面について考えるように促す。</p> <p>○自分の聴力と人工内耳・補聴器・ミニマイクについて、下学年の仲間にも分かりやすい説明になるように意識させる。</p> <p>○卒業時には、中学校で初めて会う人にも、自分の聴力や関連機器について説明できるようになる必要があることを伝え、見通しをもたせる。</p> <p>☆同障の下学年児童に対して、自分の聴力や人工内耳や補聴器の役割について説明しようとすることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以前の学習プリント ・ミニマイクの説明書 ・タブレット ・下書き用のメモ用紙 ・画用紙
<p>4.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「帰り道」→例文作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味の確認 ・タブレットにて意味調べ ・例文作り </div>	③	<p>○分からない言葉やあいまいな理解の言葉（「 」 「 」）について、タブレット辞書アプリを活用して意味を調べさせる。さらに、画像検索を行い、本児のイメージに合う画像をアプリに追加登録し、理解が深まるようにする。</p> <p>○語句のイメージをもつことができるようにするために「 」 「 」について例文作りをする際には、指導者も、実生活で起こりそうな場面を想定して例文を作る。</p> <p>☆正しい例文を作ることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語ノート（教科書のコピー） ・例文作りプリント ・イラスト ・なるほどファイル
<p>5.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「帰り道」→2人の性格は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート㊸の周也の気持ちの変化を見る。 ・「律」の性格（人物像）を考える。 ・「周也」の性格（人物像）を考える。 </div>	④	<p>○前時までに、それぞれの場面（昼休み／放課後の玄関口／天気雨の前・間・後）ごとに、2人の心情や言葉に対する捉え方について、比較しながらワークシート㊸にまとめさせ、確認する。</p> <p>○「律」について、「律」自身・「周也」から見た性格（人物像）を考え、自分から見た「律」の性格（人物像）についてまとめるように促す。必要に応じてタブレットを活用して意味を確認する。</p> <p>○「周也」についても同様に、「周也」自身・「律」から見た性格（人物像）を考え、自分から見た「周也」の性格（人物像）についてまとめるように促す。「律」についてのやり方を参考にしながら、自主的に取り組むように言葉を掛ける。</p> <p>○迷っている様子が見られた場合には、本児と指導者とで動作化したり、挿絵に吹き出しを付けてかきこんだりする。</p> <p>☆登場人物2人の人物像について、心情等の描写をもとに捉えることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までのワークシート㊸ ・人物像についてのワークシート㊸ ・タブレット ・国語辞典
<p>6.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「帰り道」→2人の心の距離</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人の心情や言葉に対する捉え方を見直し、その変化について確認する。 ・場面ごとに、2人の心の距離を想像し、表現する。 </div> <p>7. 終わりのあいさつをする。</p>	⑤	<p>○場面（昼休み／放課後の玄関口／天気雨の前・間・後）ごとに、比較した2人の心情や言葉に対する捉え方について、ワークシート㊸を再度確認しながら、ワークシート㊸に取り組むように促す。</p> <p>○言葉に対する捉え方は、2人とも異なるが、苦手意識をもっている点では似ていることにも気付くように言葉を掛ける。</p> <p>○心の距離は、曲線や直線等、どのような線で表しても良いことを伝える。</p> <p>☆登場人物2人の心情の変化を具体的に想像し、2人の心の距離を表すことができたか。</p> <p>○適当な声の大きさや自然なイントネーションに意識を向ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心の距離ワークシート㊸